



# 7月使い

作詞家の吉岡治はサトーハチローの弟子、放送作家で主に童謡から始まりました。彼は、いきなり「真つ赤な太陽」で大ヒットしてスタートしましたが、その後、演歌で作詞ができなさと悩む作家でした。彼は自分のことは、後ろ向きの美学だと言い、前向きは星野哲郎であり、いつも比較されますが、それで良いと自覚していた様です。代表作「天城越え」の詩は、まさに後ろ向きの美学で、私は歌っていてよくわかります。後ろ向きの美学、吉岡治と人情作曲家の、市川昭介のコンビは、素晴らしい演歌の世界を作り上げた二人だと思います。

さて、そのエピソードですが、作詞家吉岡治の作品は、「大阪しぐれ」から始まります。そしていきなり日本作詞大賞を取った時、自分の詩は、思い込みが強すぎるのか？なぜ受賞できたのか分からなかったらしいのです。ある時、都はるみに聞いたら、はるみは歌う時、イタリア映画「ひまわり」

の明るいひまわり畑をイメージして歌っていると吉岡に言ったのです。それを聞いた吉岡は、目からうろこが落ちた。自分のイメージと、とんでもない違いを想像しながらこの歌手は歌っていた。それから吉岡は演歌に目覚めたのです。そして演歌の作詞の快進撃が始まったとか？「鳳仙花」、「さざんかの宿」、「細雪」、「命くれない」、「天城越え」です。

皆さんは歌と言え、だれが歌っているか、つまり歌手ですよね。ちょうど映画に例えてお話しすると、皆さんは俳優さんが話題になります。私のような元、映画興行のプロから言わせると、監督が誰かなんですよ。ですから音楽も作曲や作詞の先生のお話を、知れば知るほど音楽の勉強になります。演歌とは、援歌、縁歌、艶歌、怨歌、宴歌、炎歌、などその意味も字を変えると色々となります。演歌の先生と言え、古賀政男、遠藤実、船村徹、猪俣公章、市川昭介となります。日本の歌謡曲の中でも、演歌は日本人にとって、切っても切れない存在でしょうね？皆さん、私にもっと色々な歌

## 令和4年7月おもしろ記念日

### 7月の誕生石は【ルビー】

1 (金)	童謡の日	
2 (土)	たわしの日	
3 (日)	ソフトクリームの日	
4 (月)	梨の日	
5 (火)	ビキニスタイルの日	
6 (水)	零戦の日	
7 (木)	七夕	
8 (金)	質屋の日	
9 (土)	ジェットコースターの日	
10 (日)	ウルトラマンの日	
11 (月)	真珠記念日	
12 (火)	洋食器の日	
13 (水)	ナイスの日	
14 (木)	ペリー上陸記念日	
15 (金)	大阪港開港記念日	
16 (土)	駅弁記念日	
17 (日)	漫画の日	
18 (月)	光化学スモッグの日	

のリクエストをお寄せ下さいね。最近マンネリな感じですよ。(笑)

今も昔も、若者は嫌ったりする事が多い演歌ですが、年を取ると好きになつてくるのも、また演歌ではないでしょうか？その作り手である先生のお話には本当にたくさんのおエピソードがあります。これからまた少しづつ興味深いお話をしてみたいと思います。

19 (火)	北壁の日	
20 (水)	月面着陸の日	
21 (木)	日本三景の日	
22 (金)	下駄の日	
23 (土)	文月ふみの日	
24 (日)	河童忌	
25 (月)	かき氷の日	
26 (火)	幽霊の日	
27 (水)	スイカの日	
28 (木)	菜っ葉の日	
29 (金)	アマチュア無線の日	
30 (土)	プロレス記念日	
31 (日)	パラグライダー記念日	